

# 平成30年度 学校評価アンケート結果

吉野川市立山川中学校

## 1 アンケート実施状況

(1)実施期間 平成30年12月4日（火）～12月12日（水）

### (2)回答数

ア 生徒 197名 回答率 97.5% (昨年度 95.7%)  
 イ 保護者 186名 回答率 92.1% (昨年度 88.9%)  
 ウ 教職員 19名 回答率 100.0% (昨年度 100.0%)

## 2 集計結果

(1)生徒からの評価 【とてもそう思う、だいたいそう思うを合わせた肯定群について】

### ア 肯定群が高い項目(90%以上)

|   | %    |
|---|------|
| 問9 場に応じたあいさつや言葉づかいをしている                 | 98.0 |
| 問13 生命を大切にしたり、学校や社会のルールを守っている           | 95.4 |
| 問3 時間や服装にけじめをつけ生活している                   | 92.9 |
| 問14 先生は、自分のことをクラスのみならず同じように公平に見ている      | 92.9 |
| 問16 先生は、事件・事故・災害・不審者等から身を守る方法を教えている     | 92.9 |
| 問4 先生は、差別やいじめのない学級づくりに取り組んでいる           | 92.4 |
| 問12 先生は、将来の夢や希望の実現に向けて、進路選択できるように支援している | 91.9 |
| 問7 授業に真剣に取り組んでいる                        | 91.4 |
| 問15 先生は、困ったことや悩んでいることの相談にきちんと応じている      | 90.9 |

### イ 肯定群が低い項目(70%以下)

|                            | %    |
|----------------------------|------|
| 問19 外部講師による授業や校外学習の機会が多くある | 69.5 |
| 問6 本を読むことが好きである            | 59.9 |

### ウ 昨年度との比較で上昇した項目(10P程度)

|                       |         |
|-----------------------|---------|
| 問17 授業や行事などを適切に公開している | 10.4P上昇 |
|-----------------------|---------|

### エ 昨年度との比較で下降した項目(10P程度)

|      |  |
|------|--|
| 該当なし |  |
|------|--|

(2)保護者からの評価 【とてもそう思う、だいたいそう思うを合わせた肯定群について】

### ア 肯定群が高い項目(90%以上)

|  | %    |
|--|------|
| 問17 学校は、授業参観や行事などを適切に公開している                      | 97.8 |
| 問9 子どもは、場に応じたあいさつや言葉づかいをしている                     | 95.7 |
| 問13 学校は、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てている              | 95.7 |
| 問16 学校は、地震・火事・台風・不審者への対応について、指導や保護者への連絡ができています   | 94.6 |
| 問3 子どもは、時間や服装にけじめをつけた生活を送っている                    | 94.1 |
| 問14 学校は、子どもの能力や努力を適正・公平に評価している                   | 94.1 |
| 問4 学校は、差別やいじめのない学級づくりに取り組んでいる                    | 93.5 |
| 問1 子どもは、楽しく学校生活を送っている                            | 93.0 |
| 問2 子どもは、規則正しく生活をし、朝食をとって登校している                   | 91.9 |
| 問8 学校は、教え方や教材などを工夫して、わかりやすい授業を進めている              | 91.9 |
| 問12 学校は、生徒の将来の夢や希望の実現に向けて、進路選択できるように支援している       | 91.4 |
| 問7 子どもは、授業に真剣に取り組んでいる                            | 90.9 |
| 問15 学校は、子ども同士のトラブルや悩み、保護者からの相談に適切に対応している         | 90.9 |
| 問18 学校のホームページ・学年・保健・図書などの便りで、生徒の様子や学校の取り組みがよく伝わる | 90.3 |

### イ 肯定群が低い項目(70%以下)

|                      |      |
|----------------------|------|
| 問6 子どもは、本を読むことが好きである | 51.6 |
|----------------------|------|

### ウ 昨年度との比較で上昇した項目(10P程度)

|                          |        |
|--------------------------|--------|
| 問6 子どもは、本を読むことが好きである     | 7.0P上昇 |
| 問11 子どもは、部活動に積極的に取り組んでいる | 8.3P上昇 |

### エ 昨年度との比較で下降した項目(10P程度)

|      |  |
|------|--|
| 該当なし |  |
|------|--|

### (3)教職員の自己評価 【とてもそう思う、だいたいそう思うを合わせた肯定群について】

#### ア 昨年度との比較で上昇した項目(10P程度)

|     |                                     |        |
|-----|-------------------------------------|--------|
| 問12 | 学校は、将来の夢や希望の実現に向けて、進路選択できるように支援している | 8.7P上昇 |
|-----|-------------------------------------|--------|

#### イ 昨年度との比較で下降した項目(10P程度)

|  |      |  |
|--|------|--|
|  | 該当なし |  |
|--|------|--|

### 3 分 析

アンケートの項目は、次のように学校教育目標（努力事項）を踏まえて作成している。

|      |       |                            |
|------|-------|----------------------------|
| 質問項目 | 1～4   | 安全・安心な活力ある学校づくりの推進         |
|      | 5～8   | 確かな学力の向上                   |
|      | 9～13  | 豊かな心と健やかな体の育成              |
|      | 14～19 | 組織的・機能的な学校運営、信頼される学校づくりの推進 |

○本年度の努力事項の達成状況は、生徒及び保護者からの評価結果から、19項目中17項目程度が中～高レベルにあるため、「おおむね達成できている」と判断することができる。

○生徒の評価全般からは、生徒は中学生らしく落ち着いた学校生活を過ごしており、学習活動全体にわたり真面目に取り組んでいると感じている。また、大半の生徒が学級への所属感、学校に対する安心感を持って生活できていると考えられる。学年ごとに見てみると、上級生になるにしたがい、学習活動や進路への意識の高まりが見られるとともに、言葉づかいやあいさつ、社会でのマナーやルールを守る意識が高くなっており、教育効果が適切に表れてきていると考えられる。

「地域の施設や地域人材の活用」については、教職員との差が15ポイントほどある。本年度も、人権教育、福祉教育、キャリア教育等の視点から県内各地より外部講師を招聘し学習を重ねてきたが、地域の施設利用や地域の人々との関わりを深める学習内容については課題が見られる。来年度からは、「特別の教科 道徳」が実施されることもあり、地域教材等を用いた学習についても深めていきたいと考える。

「読書活動」については、昨年度と同様に課題となっている。スマートフォンやインターネットを活用した生活スタイルの変化が大きく影響していると考えられる。また、生徒、保護者、教職員ともに60%程度の肯定的な回答となっており、保護者においては昨年度より7ポイント上昇しているものの、生徒を学年別に見てみると、学年が上がるにつれ肯定的な回答は減少傾向にある。読書活動を充実させることは、論理的な思考を高めることを含めて、学力向上との関連性において様々な形で実証されているなか、進路決定を控えた最上級生には、様々な時間的制約が生まれ、読書に関する時間の減少や意識の低下が起こればと考えられる。

「夢や目標を持って学校生活に取り組んでいる」「わかりやすい授業の展開」については、80%を超える高い評価を得ているが、反対に12～16%程度の生徒が否定的な回答となっており、各学年10名程度の生徒がこのような意見を持ち、日々学校生活を過ごしていることは課題である。学力向上については、これまで継続、実践してきた授業改善やICT機器の活用等により、全体として一定の効果をあげてきているが、一人ひとりの学力について大きく差があり、夢や目標を持たずに学校生活に取り組んでいる生徒がいることも事実である。将来への展望を持ち、活力ある学校生活を過ごすには、確かな学力と豊かな心の育成が必要である。これまでの取り組みを踏まえた上で、一人ひとりの能力に応じた基礎学力の定着を図るとともに、学校の教育活動全般を通じて、自己有用感や自尊感情を高める取り組みも継続していきたいと考える。

○保護者の評価からは、学校教育目標（努力事項）の項目全般にわたり、高いレベルでの評価が得られている。また、生徒評価における「授業・行事の公開」の項目では、肯定的な回答が昨年度より10P程度上昇しており、保護者、生徒ともに90%程度の高評価となっている。さらに、保護者評価の「生徒の部活動への取り組み」においても、昨年度より10P程度上昇し、90%近くの高評価となっている。このことから、保護者は、学校の取り組みや子どもの様子を把握した上で、学校教育活動が安定していると判断していることが推測される。

これらの評価をもとに、すべての生徒が目標を持ち、安心して学校生活が過ごせるよう、また、保護者や地域から信頼される学校づくりを目指し、次年度の学校教育の運営に生かしていきたい。